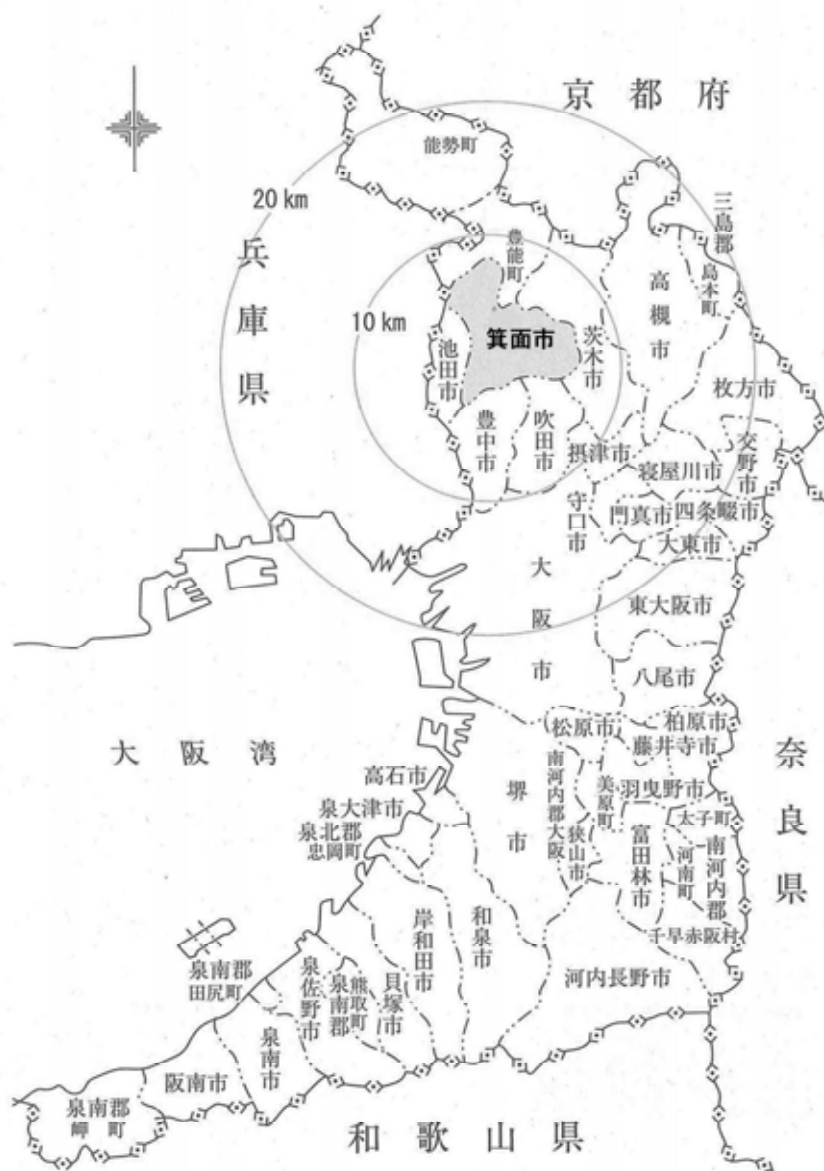


1. 箕面市の概要

1) 位置と面積

本市は北緯 34 度 49 分・東経 135 度 29 分、大阪府の北西部に位置し、東は茨木市、西は池田市、南は豊中市・吹田市、北は豊能町、兵庫県川西市と隣接している。

市域は東西約 7.1km、南北約 11.7km、面積が 47.84 k^m²で、その約 6 割を明治の森箕面国定公園を含む北部の山間地域が占め、2 割弱を宅地が占める。全域が都市計画区域に指定されており、市街化区域のうち、住居系の用途地域が全体の約 9 割を占めている。残りの地域は、箕面駅前や大阪船場繊維卸商団地(コム・アート・ヒル)といった商業系の用途地域で、工業系の用途地域に指定されている地域がないという特徴がある。



箕面市商業活性化ビジョン 参照

2) 沿革

本市の歴史は、様々な出土品から、約 20,000 年前の旧石器時代にまでさかのぼるが、約 6,000～3,000 年前には、既に集落が形成されていた。また、1～2 世紀になると、稲作も行われていたようである。

律令国家が形成された 10 世紀頃には、摂津豊嶋郡(てしまぐん)の秦上郷(はたのかみごう)(止々呂美地区)、秦下郷(はたのしもごう)(箕面地区)、駅家郷(うまやごう)(萱野地区)及び、島下郡宿久郷(しましたぐんしゆくごう)(粟生地区)に属し、西日本の陸上交通の幹線であった西国街道の交通の要所として、箕面地区に豊嶋牧(てしままき)、萱野地区に草野駅(かやののうまや)が設置された。同時期に、箕面寺(瀧安寺)、勝尾寺も創建され、後に「聖(ひじり)」の集う寺院として有名となった。

近世においては、太閤検地によって誕生した村落を中心として、酒造米の生産などの農業が発達し、山間部では果樹生産と製炭が栄えた。西国街道沿いの瀬川地区と半町地区には、駅所が造られ、参勤交代や人々の行き交う拠点として賑った。

近代になると、明治 22 年の町村制施行によって、箕面、萱野、止々呂美、豊川の各村が発足した。そして、明治 31 年の大阪府営箕面公園の設立、同 43 年の箕面有馬電気鉄道(現在の阪急箕面線)の開通によって、観光地としての基礎が整備されるとともに、市街化が本格化することとなった。

昭和 23 年の町制施行によって、箕面村は箕面町となり、同年萱野村、止々呂美村を合併した。次いで、昭和 31 年には豊川村との合併を行い、箕面市となった。その後、昭和 32 年には川合地区を編入したほか、平成 11 年に茨木市の大字粟生岩坂、大字宿久庄の一部を編入し、大字粟生間谷、粟生間谷東三丁目の一部を茨木市に編入して、現在の市域に至っている。